

Newsletterは、東京YWCAの事業活動を皆様にお伝えするための広報紙です。毎回特集で取り上げる事業を中心に、東京YWCAの今をお届けします。

私たちは、「武力で平和はつくれない」という信念に基づき、安全保障法制の廃止を求め、憲法改悪に反対します。

特集

子ども

東京YWCAでは、子どもキャンプ、学童保育、障がいのある子どものための療育、学習支援など、多岐にわたり子どものための事業を行っています。それらの事業の中で、東京YWCAは子どもをどのようにとらえているか、東京YWCAまきば保育園を通してお伝えします。

## “一人ひとりの力を信じる保育園”

東京YWCAが、常に大切にしてきたのは、「子ども一人ひとりの存在はかけがえのないものであること、それぞれの中にその子どもだけの力が宿っている」という、子どもの尊厳と子どもの存在を尊重する姿勢です。これは、『神の前では皆が等しくかけがえのない存在である』という私たちがよって立つキリスト教基盤に根ざすものです。

### 歴史ある土地で 緑ゆたかな環境に見守られて

東京YWCAまきば保育園は、調布市国領にあります。1926年、この地に東京YWCAが根を下ろして以来、社会状況や地域のニーズにこたえて、青少年活動、社会福祉事業など様々な活動を

行ってきました。

45年前この地ではじめられた障がいのある子どもの保育グループや、統合保育（障がいのある子どももいない子どもも共に育つ）『まきば幼稚舎』を経て、現在の認可保育園東京YWCAまきば保育園は生まれました。「子どもたちが幸せな時間を過ごす場所でありたい。家族が信頼を置き、子どもたちを安心して委ねることのできる園でありたい」と願いながら歩み、この春6年目を迎えました。2017年度は、0歳児から5歳児まで98人の子どもたちを受けとめました。2018年4月からは98人が登園しています。緑豊かな広々とした園庭の木々は、昔と変わらず大きな木陰をつくり、子どもたちを見守っています。

### その後の人生に大きな影響を与える時期だからこそ

まきば保育園では等身大の子どもたちを受け止め、日々のさりげない出来事を丁寧に積み重ねています。繰り返しも思えるその日常の中にこそ、子どもたちが育つ瞬間がちりばめられています。幸せな時間を過ごすことは幸せな自分を憶えることであり、それを人に伝えていく姿に繋がっていきます。子どもたちが幸せな人生の第一章を生きることができるよう、子どものありのままの姿を見つめ、子ども自身がその一歩を踏み出すのを信じて待ち、一人ひとりに寄り添い歩む保育園でありたいと思います。



# 東京YWCAが実践する理想の保育

## 「一人ひとり違うそれぞれの育ちを大切にする」、 「今を生きる子どもたちと共に在る」という視点

一人ひとりの発達を年齢基準からではなく、具体的な子どもの今の姿から見つめていきます。乳児期は年齢ごとに分かれ、保育士との一対一の応答的な関係の中で、日々違う姿を見せるその子どもの育ちが丁寧に育まれていきます。やがて幼児期を迎えた子どもたちは、3歳児から5歳児の異年齢保育の中で生活をします。多様な個性をもつ友だちとの出会いがあり、数々のエピソードが生まれます。他の

人には自分とは違う考えや思いがあること、分かり合えると嬉しいということに気づいていきます。年齢を越えて一緒に遊ぶ姿や、気持ちがぶつかり悲しくて涙する姿、大きな子が小さな子に寄り添い慰める姿には一人ひとりの物語があり、成長している今の姿そのものなのです。保育士たちは、時を選び言葉をかけ、常にそばにいて子どもたちの成長を見守り続けているのです。



遊ぶ時はみなきょうだい。さあ、乗って！

## いくつもの専門性によって生まれる 子どもたちの居場所

保育士は、ある時は子どもたちの世界の傍に、またある時は共にその世界の中に身を置きます。生活の場である保育園には、健やかな日々を支える看護師、栄養士もいます。日々、子どもたちを支える



みんなで話し合い遊びを創っていく

専門職に求められるのは、子どもの今の姿をその子の育ちとして読み解き、表情や言葉の中に込められた気持ちをすくい上げる力です。専門職がそれぞれの力を発揮できるよう、専門性を深めるための園内研修の充実に努めています。

## 最高の保育環境は自然の恵みと 人間の配慮から生まれる

800坪近い園庭は四季折々違った姿を見せ、小さな畑に育つ野菜や草むらの虫や蝉しぐれは子どもたちの知りたい気持ちを育てます。小さな口グハウス、木のブランコや丸太、泥場や築山は想像



私たちを変わることなく見守る木々

力を豊かに広げ、毎日どの子の靴も泥だらけになるほど園庭で遊びます。園舎内は、安全への配慮と色の氾濫を避けた落ち着いた環境が整えられ、子どもたちは自由に創造的な遊びに夢中になっていきます。

## 地域に開かれた子育て支援事業



みんなで一緒にお弁当。なごやかなひととき

### 居場所づくり、本物体験、地域での交流

「たんぼぼ広場」は、経験豊かな保育士とボランティアが支える、親子のための居場所です。参加したお母さんからは「毎日の子育てに疲れたとき、先生や他のお母さんたちとお話をしたり、ともに食卓を囲むひとときに支えられました」「たくさんの初

めてを一緒に楽しみました」との声がありました。また、親子のためのクラシックコンサート、恒例のオータムフェアには、地域の大勢の家族の姿があります。どれも保育園を通してYWCAと地域を繋ぐ大切な機会となっています。

ご関心のある方はどうぞお問い合わせください

東京YWCAまきば保育園

☎ 042-483-5208 ✉ makibahoikuen@tokyo.ywca.or.jp

🏠 <http://www.tokyo.ywca.or.jp/child/makiba/>



## 『さとにきたらええやん』上映会 & 講演会

子どもの貧困、子どもの権利から考える  
誰もが安心して過ごせる居場所の大切さを伝えたい

子どもたちがありのままに居られる環境について考える機会を作りたいと、青年リーダーと職員がチームを組み、企画した上映会第2弾です。この映画は大阪の児童館「こどもの里」を舞台にした映画で、館長である庄保共子さんの講演会も実施しました。参加者からは「子どもたちを支えていける大人になりたい」、「自分に何ができるか考えさせられた」という声があり、企画メンバーは手ごたえを感じています。



多くの子どもと向き合う庄保さんのお話から、子どもとの関わりについて考えました

## DVサバイバーと協働する 支援者トレーニング

よりよい支援の実践をめざして  
支援者同士が共に学びつながる

秋田・静岡・大阪・熊本でDV被害者(サバイバー)の支援者を対象とした研修を7月から2月まで開催しました。研修は2日間のトレーニングと、それから3ヵ月後に行うフォローアップ1日という内容で、受講者同士が交流を深められるよう工夫しながら、地域の支援の質向上につなげることを目的に実施しました。どの地域も定員いっぱい、体験ワークを通じて学んだサバイバー理解を今後役に立たいという感想が多く寄せられました。また、フォローアップでは事例を通じて支援の連携について検討しました。今年度は修了生が学びを実践できるようフォローアップを充実させるとともに、他の地域にも支援者トレーニングの重要性を発信していきます。なお



グループ発表のあと講師からコメント

この研修は、ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会の助成金と個人・企業・団体からのご寄付により実施しました。今後も引き続きご支援をよろしく願いいたします。

## ユースのための憲法カフェ 第2回 テーマ「教育」

—“あたりまえ”はひとつじゃない—  
講師：中野晃一先生(上智大学教授)

若い人が自分の生活と憲法とのつながりを知り、考えるためのきっかけ作りがこのイベントのねらいです。参加者にとって、普段は話す機会が少ない学校教育への疑問を話せたことが大きな収穫だったようです。「意識高い系」



中学生4名と教員経験者が参加

「まじめ」と見られたくない気持ちから、学校生活では避けていた話題を、この場ではみんなと話し合うことができ嬉しかった、と感想がありました。次回のテーマは「貧困」です。

## Facebook始めました

イベントやボランティアの情報を発信

東京YWCAをもっと身近に感じてもらえるよう、各事業の担当スタッフが、公式ホームページでは伝えきれない情報や、日々の活動の様子を投稿します。ぜひご覧ください。

## 東日本大震災被災者支援事業 震災を忘れない取り組み

第5回被災地訪問スタディーツアーを10月末に実施し、5年ぶりに石巻を訪ねました。仙台YMCAの協力でYMCA石巻広域ワイズメンズクラブの方を講師に沿岸を見学し、お話を伺いました。7年が経ち

復興は進んでいますが、震災が人々に与えた深い喪失感は埋まらないことを改めて感じる旅でした。参加者からは、被災地で支え合い活動する方々を心に留め、応援し続けたいと感想が寄せられました。



石巻日日新聞で震災直後の活動を伺いました

